

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の

ほっと・ニュース

新しい年が、希望に満ち、幸多きものとなりますように

今年も各地で美しい初日の出が見られました。

(※各地の年末年始の催しの写真を4面に掲載しています)



南相馬市小高区
からの初日の出



浪江町からの初日の出



「イノベーション・コスト構想推進会議」を開催しました

12月18日、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の実現に向け、「イノベーション・コスト構想推進会議」の第1回会合を開催しました。

会合は、高木原子力災害現地対策本部長を座長とし、内堀福島県知事、被災各市町村の首長、有識者を含む多くの関係者が出席して、個別検討会の進捗報告に続いて、構想推進の課題について意見交換を行いました。委員からは、「地域の特性を踏まえ、広域的な視点から役割分担を検討することが重要」

「産業の視点だけでなく住民の視点に立ったまちづくりが必要」などの指摘がなされました。

なお、23日には、復興庁の「福島12市町村の将来像に関する有識者検討会」が開催されました。本検討会では今後、イノベーション・コスト構想や各市町村の復興計画も踏まえ、広域かつ中長期的な視点で将来像の検討を行う予定です。



■暮らし関連2



「地元の皆さん
が生活できるよ
うになるための
役に立ちたい」

■暮らし関連3



「一歩一歩前に
進んで行きたい」

■NEWS等4

- ・各地の年末年始の様子
- ・被災地向け企業立地補助金の公募 等



詳しくは、経済産業省のホームページをご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html#innovation>



「地元の皆さんができるようになるための役に立ちたい」

もともとコメ作りをしていましたが、より付加価値の高い農業経営を目指し、オリジナリティのあるバラや宿根草の苗の生産・卸・販売から花を使った関連商品の販売などを手掛ける「大森プランツ」を設立しました。

那須や横浜にある直営店では、苗の販売に併せて商品の花々が庭で咲く様子をお客さんに実際に見てもらい、花を使った食品や雑貨も楽しんでもらうようになっています。

震災発生当時は店長と一緒に仙台の市場で仕入れをしていました。小高には夜になってなんとか戻ってくることができました。

当時は宿根草の出荷のピークでしたが、出荷場や畑にあった多くの苗は出荷できなくなってしまいました。

一時は会社を続けるか迷いましたが、当社にしか出荷していない生産農家の方々のためにも再開しようと決め、春の彼岸の頃に新地町で営業を再開しました。

栃木県に店や生産の一部を移しましたが、バラの生産については、小高の気候の方が向いていることがわかり、小高に戻しているところです。

人材の確保は大変ですがいろいろな業種の仲間たちと一緒に、バラを使った町おこしに取り組んでいます。



出荷を待つバラの苗



小高に戻って、空の高さが違うということをいつも感じます。

大森プランツ株式会社 代表取締役
佐々木 清志郎さん



店の庭では季節ごとに違った花を咲かせます



出荷場には大型の冷蔵庫を備えています



大森プランツ株式会社

(商品統括本部)

福島県南相馬市鹿島区寺内字権現沢153

連絡先: 0244-67-1770



暮らし関連情報

◆◇株式会社笠原鋳物工場 福島工場(川俣町)◇◆

「一歩一歩前に進んで行きたい」

当工場では、トラックやバス等の大型車のエンジン部品や建機の部品などを生産しています。

本社は昭和30年創業の横浜にある会社ですが、昭和48年に、当時企業誘致を行っていた川俣町の山木屋地区に工場を建設し、操業を開始しました。

震災当日は地震発生と同時に停電になりました。真っ暗になった工場の中で、まずは42人の従業員の安否確認を行いながら、炉の中の熔けた鉄を安全に外に出すことに注力しました。

屋根や外壁、盛土や水道管などが壊れましたが、機械設備には損傷はありませんでした。顧客に少しでも早く安心してもらうため、自分達で壊れた個所の補修を行って、1週間後には操業を再開しました。

操業再開後も大きな難題がいくつも立ちはだかりましたが、従業員、顧客、取引先や同業他社を始め、多くの方に協力をいただき、なんとか操業を継続することができました。

震災から1年たった頃、取引が減るなど再び苦境が訪れましたが、平成26年春からは顧客が少しずつ戻り始め、明るい兆しが出てきています。



キューポラ（炉）から
熔けた鉄を取り出します



みんなで一緒にこの地で一生懸命
やるんだ、という力を持つことが
大事だと思います。

株式会社笠原鋳物工場 福島工場
工場長 村上 仁さん



熔けた鉄を型に慎重に流し込んでいきます



製品についた砂は、機械で
きれいに取り除きます



株式会社笠原鋳物工場 福島工場
福島県伊達郡川俣町山木屋字上松林山1-1
連絡先：024-563-2111



各地の年末年始の様子

年末から年始にかけてさまざまな催しが行われ、大勢の人でぎわいました。



被災地向け企業立地補助金の公募を行っています(2月25日まで)

経済産業省は、原子力災害被災地域及び津波浸水地域において工場等を新增設する民間事業者に対し、その経費の一部を補助する「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」の製造業等立地支援事業についての第四次公募を行っています。詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://www.mizuho-ir.co.jp/topics/tsunami-ritti/04/02.html>

お問い合わせ：「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金（製造業等立地支援事業）」事務局（みずほ情報総研株式会社）電話：03-5289-7204



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>